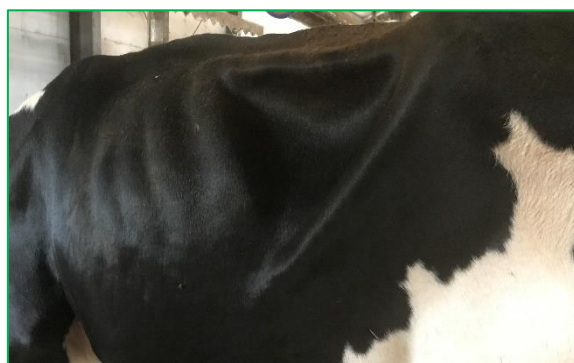


あしよろ・ハードサポート通信

1月下旬からは例年通りの厳しい寒さが訪れました。寒さには比較的強い牛ですが、この時期はコールドストレスによる悪影響が出る可能性があります。牛が調子を落とす前に、飼養管理に問題が無いかチェックすることは大切です。昨年5月号では牛の糞性状の観察について取り上げましたが、今回は牛自体を観察する時の主なポイントについての記事です。

◆ エサをきちんと食べているか？

牛が十分にエサを食べていない場合はその後様々な悪影響が予想されます。牛の採食量の状態は牛を後ろから見て左側の、第一胃であるルーメン部分が張っているかを観察します。分娩直後の牛によく見られますが、右の上の写真のようにルーメン部分が大きく凹んでいる場合は採食量が落ちていることが考えられますので要注意です。牛の採食量が良好な場合は、右の下の写真のようにルーメン部分が膨らみます。牛群全体のルーメン部分の張りはどうか、ルーメン部分の張りが極度に悪い牛がいないか、張りの悪い牛はその後採食量が上がってきているかどうかを確認しましょう。



◆ 足が痛くないか？

牛は足が痛くなるにつれて背中を丸めて立つようになります。足が痛いと言食量も落ちやすくなり、乳生産や繁殖面にも悪影響が出ます。右の写真は比較的重度の蹄病になった牛で、採食量も低下していることがわかります。このような状態になる前に、獣医さんを選んで適切な処置を行ってもらいましょう。



◆ 牛が寝たいときに寝られているか？

牛がエサを食べたいときに食べられる、水を飲みたいときに飲む、そしてベッドで寝たいときに寝られることはどのような飼養形態においても大切です。右の上の写真はパーチングと呼ばれる姿勢であり、何らかの理由によって牛が「寝たくても寝られない」というアピールをしている場合に見られます。このパーチングを示す牛が多いときは、ネックレールの位置などベッドの構造が不適切な可能性があります。牛は立っている時間が長いほど、ゆっくりと反芻を行う休息の時間が短くなり、さらに蹄病のリスクが高まります。右の下の写真では牛が揃ってベッドに寝ています。一番手前の牛はルーメン部分の張りも良好ですね。このような状態であれば、この牛舎のベッドは牛にとっての快適性が高いと考えられます。



◆ 牛体はピカピカか？

牛体の汚れは除糞の頻度やベッドの構造によって左右されますが、牛自体の「毛ツヤ」が良いかどうかは大事な観察ポイントです。牛にストレスが少なく、栄養状態も良好であれば毛ツヤも良くなります。右の写真のように斑紋の境目がはっきり見えて被毛がケバ立っていないような状態であると毛ツヤは良好です。牛群に毛ツヤの悪い牛が多い場合は他の観察ポイントも併せて確認し、原因を解明して対処していきましょう。



◆ 牛が常に一番の答えを出してくれている

今回取り上げたもの以外にも、牛の観察ポイントは多くあります。綿密に計算された飼料給与や最新の技術を取り入れた飼養管理を行っていても、牛の状態が悪ければ改善を行うべきです。牛群の良好な状態を保つためには、まず牛を見て状況を見極め、アクションを繰り返していくことが大切なポイントです。 （市川雷太）

